

巻頭言

Introduction

支部長 渡邊 昌彦
(東新潟中学校 昭62年度)



「先輩からの志の継承」

今から20年以上も前のことです。当時私は中学3年生の学級担任で、毎朝7時過ぎには、出勤してその日の授業の準備をしていました。その先輩はいつも私より早く出勤され、右隣の席(席が隣だった)に座り仕事をされていました。

いつからか、早朝時に、その先輩と話すことが増えました。日常的な他愛ない会話もありましたが、理科指導だったり、生徒指導だったり、特別活動だったりしました。時には単元ごとの評価票だったり、その評価票の活用の仕方だったりしたので、今、思えば早朝から専門的な内容で、近くで聞こえていた方には迷惑だったかもしれません。そして、またいつからかその先輩との会話を、私は楽しく感じるようになりました。その先輩は様々なアイデアというボールを私に投げても、反応を見ました。速やかに実行に移せるものとそうでないもの、これは実現がとても困難ではないかと思われるものなど様々な高さのボールでした。ボールをしっかりと受け止め、自分の思いや考えをつけて投げ返す。その繰り返しでした。今思い返せば、先輩との毎朝のアーリーワーク、これによって当時の子どもに向かう姿勢が鍛えられ、その後の自らの教師人生の基盤にもなったと思います。

さて、ときわ会は今年で創設150周年という大きな節目を迎えます。10月1日に朱鷺メッセで開催される記念式典には、三千人を超える現役会員が一堂に集います。これまで、ときわ会の真価を問う13の問いを支部研修会で交流し

たり、ウェブを活用して全県で交流したり、志の継承として先輩OBの講話を聴いたり事前活動を進めてきました。当日がその集大成になります。

私たちの「教師としての歩み」と「ときわ会の歴史」は重なっています。「真価を問う13の問い」の1つに「ときわ会の先輩からかけられた大切な言葉は?」がありますが、その背景にはその先輩とのかかわりがあるはずで、今でも前述の先輩とのかかわりが強く心に記憶されています。

今年度、新潟東支部では「成長する会員、成長する新潟東支部」をスローガンとして、すべての委員会の取組を見直し、新たな研修の在り方に取り組みます。一人一人の会員の声に耳を傾けながら、充実発展させるために、特設委員会として未来戦略構想委員会を立ち上げました。どのような提案がなされるかはこれからですが、150周年の先の10年を見据えた第一歩としたいと思います。

先の見えにくい時代に突入しています。様々な問題や困難に遭遇した時に、先輩だったら何を大事にして、どう対応するだろうか、先輩は私にどんなアドバイスをするだろうか、心の中で自問することがあります。ときわ会は、これまでも、そしてこれからも会員一人一人の心の中に、その志を継承していきます。

今年度の出会いとその後の会員同士のかかわりを支部でも大切にしていきたいものです。